

1. 令和3年度 第2回協議会 議事要旨

日 時：令和4年2月15日（火）午後2時00分から午後4時30分

場 所：世田谷区役所二子玉川分庁舎 大会議室

出席者：対面（委員21名、事務局3名、コンサルタント2名）、
リモート（委員20名）

会議次第：

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 議題
 - （1）第1回協議会の振り返り
 - （2）策定の目的について
 - （3）促進地区の選定について
 - （4）促進地区の区域設定について
 - （5）まち歩きの実施について
 - （6）今後の進め方について
- 4 その他
- 5 閉 会

配付資料：

次第

資料1：第1回世田谷区移動等円滑化促進方針策定協議会議事要旨

資料2：移動等円滑化促進方針策定の目的

資料3：促進地区の選定について

資料4：促進地区の区域設定について

資料5：まち歩きの実施について

資料6：今後の進め方について

議事要旨

(1) 第1回協議会の振り返り

—意見なし—

(2) 策定の目的について

<議題に関する内容>

- ハード面・ソフト面での取組みが一体的になされるような、世田谷らしさを強調した計画になるとよい。
- 障害の多様性や特性を理解していただくためには、ハード領域だけではなく、インクルーシブ教育や啓発活動などソフト領域とも連携し、協調していくことが重要である。

<その他の意見>

- 心のバリアフリーという概念が抽象的であるため、心のバリアフリーとは何か、ということも議論していく必要がある。
- 法制度や社会の習慣など社会的なルールによるバリアを、ひとつひとつ取り除いていくこと自体が心のバリアフリーではないか。
- 情報のバリアフリーについても検討していく必要がある。

(3) 促進地区の選定・区域設定について

<議題に関する内容>

- 提案した促進地区の選定及び区域の設定について、全委員より承認を得た。
- 今回の促進地区のイメージとしては、モデル地区として位置づけて、そこに他のバリアフリー化が進んでいない地区を近づけていくために、まず先行事例を作って、その後に追いつかせるという考えである。
- 他自治体での事例を踏まえた地区設定の考え方として、複数地区を促進地区に設定する方法がある。また、ハード整備の予定がないとソフト施策を付随させることが難しいという点もあるため、ハード整備の予定がある地区を設定する方法がある。世田谷区のように、1地区をモデル地区として設定し、その後全区的に展開していくという考え方もあるため、この考え方で問題ないとする。
- 梅ヶ丘駅・豪徳寺駅・山下駅周辺、並びに区役所・松陰神社周辺を含む地区設定の考え方については、促進地区として新しい世田谷ということで、このままモデル地区として検討を進めていただきたい。
- うめとぴあや保健福祉総合プラザの利用にあたり、使用が想定される駅である梅ヶ丘駅や豪徳寺駅、山下駅だけではなく、京王線東松原駅も地区内に含まれることや、世田谷線沿線のひだまり友遊会館などの高齢者の拠点となる施設が追加されることは、地区の見直しにおいて評価できる点である。

<その他の意見>

- 促進地区において、ハードとソフトの連携によるバリアフリー化の方針を具体的に定めるにあたり、それらの課題を把握するために、世田谷区役所周辺地区にてまち歩きを行い、評価されている部分や、改善していく部分としてどういう点があるのかを整理した上で、UD推進計画を含んだこれまでの取組みと比較して、方針を整理していく。

- 移動等円滑化促進方針において促進地区として指定するだけでなく、重点整備地区に指定し、基本構想を作成することで、実質的な事業の推進につなげていくことも重要である。
- 計画に基づいたハード整備やソフト施策の推進には、商店街や地域の方々も一緒になって理解していくことが重要である。
- 情報のバリアフリーについて、視覚障害者誘導用ブロックによる誘導だけでなく、梅ヶ丘駅や豪徳寺駅で導入されているスマートフォンを活用したルート案内のシステムなどが、広く使えるようになるとよい。
- 促進地区内に限らず、街中で困っていたら声をかけてもらえるようなまちづくりができるとうよい。
- 北沢川緑道と烏山川緑道など緑道にはトイレが整備されていない。移動経路沿いにおいて、公共施設でのバリアフリートイレの整備や、民間施設の部外者でも利用可能トイレへの案内、ベンチの整備などが進むとよい。
- 東松原駅から梅ヶ丘駅にかけての経路にトイレがあまり整備されていない。
- 踏切における隙間をどうにかしてほしい。
- 何か催しがある際に、障害をもつ子どもでも積極的に参加させられるように、スタッフなど体制が整ったイベントが開催されるとよい。
- 促進地区は福祉のまちづくりを重点的に進めていくエリアである、ということを経域の方々に理解していただくことが非常に重要であるため、促進地区のエリアが決まった段階で、梅ヶ丘拠点地域交流会議を活用して、地域に根差した計画とするための議論ができればよいと考えている。
- 駅周辺の商店街を中心に、視覚障害者誘導用ブロックに準ずるリーディングラインを整備してきた。そういった歩行者の安全対策について、促進地区でも検討できるとよい。

(5) まち歩きの実施について

―意見なし―

(6) 今後の進め方について

―意見なし―